

経済情報コンダクター

TOKAI ZAIKAI

月刊

東海財界

Monthly Report



カンボジアの女性起業家 カム・ケムラ
美容サロン事業拡大中
カンボジア国内を席巻



駐名古屋大韓民国総領事館総領事 朴煥善
韓国国交正常化から50年
今後も両国発展に最善を尽くす



中部大学学長 山下 興亜
地域と世界をキャンパスに
社会で「あてになる」人材を育む

地域との連携強化を図り
一体感のあるサッカークラブへ



名古屋グランパスエイト
久米 一正社長

「印章歴史館」を訪ねて
印章7000年の歴史

横井五六愛知県議会議長
正々堂々とした姿勢

藤沢たまたま名古屋市長
市民のための議会を打ち出す

来年の「志摩サミット」はドローン整備は？
グループとソフトバンクがロボットに進出

上昇に転じたクレジットカード利用
使い方で大きく広がるライフスタイル

痛快!野球見たまま

2年で10億以上の年俸削減した中日

2015 7月号

(毎月1回 25日発行)

今月の一冊 記事内容

今月の一冊

最期まで、 命ががやいて

著者 石賀丈士
発行 幻冬舎

がん患者が最期まで充実した時間を過ごすため、家族はどうするべきか――。

本書はがん患者とそれを支えた人達のドキュメンタリーを取り上げ、そこに緩和ケアと在宅医療のプロフェッショナルが、ふだんの生活や精神面のみならず医療費制度なども含めて具体的な解説を添えたものだ。
余命二カ月を乗り越えて娘の成人式を見届けた母、闘病



14年間で1000人を看取ってきた39歳の若手緩和ケア医が語る
末期がん患者が最期まで自分らしく過ごす在宅医療とは――

「我々の日々をいざばんの親友と過ごした青年」
「余命2カ月を乗り越え、娘の成人式を見届けた母」
「志願のクリスマスパーティーで、家族に囲まれて暮らした父」

生活に奪われた青春を取り戻した青年、がんではなく老衰で逝った「奇跡の人」、抗がん剤治療を選び最期まで戦った女性など。様々な「命のカルテ」から、生きるとは何かを考えさせられる。
著者は三重大学医学部卒業、医療法人SIRIUS理事長。在宅医療専門のいしが在宅ケアクリニック院長として、年間二五〇例近い在宅での看取りを行っている。
大きめの字と広い行間で読みやすさに配慮された在宅医療のハンドブック。
定価・一三〇〇円＋税。